



### 世界の子どもたちの絵画展を終えて

藤原敏雄 (境町地域おこし協力隊員  
アートディレクション)

「こどもは誰でも芸術家だ。問題は、大人になっても芸術家でいられるかどうかだ」とは、パブロ・ピカソが雑誌インタビューに答えた言葉と言われています。

S-Gallery 肅燦寶美術館での最初の企画展「世界の子どもたちの絵画展」(境町主催)を今年1月5日から2月26日まで開催しました。

海外37カ国1地域などのこどもたちの色彩豊かな絵81点が会場に溢れていました。モチーフも様々。お祭り、風習、民族衣装、家族、風景、中には、公害という社会問題を取り上げた絵もありました。アジア、アフリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、オセアニアと世界の地域に渡ります。国連加盟国190余の数に比べると展示した国数は少ないとはいえ、絵を通じて海外の小さな旅を、境町のこどもたちは味わってもらえたでしょうか。

展示した絵は、海外のどの国と地域かという点、境町と交流があるアルゼンチン、アメリカ、フィリピンの他に、境町に住んでいる外国籍住民の出身国と地域です。外国籍の住民の皆さんは、会場に展示の中から、ご自分の国や地域のこどもたちの絵を見つけてくださりましたか。

日本に住む外国籍親子の間にコミュニケーションギャップがあると聞いています。こどもは学校の教師やクラスメイトとの日常的な触れ合いで、日本語の習得が進んでいく一方で、親はこどもほど語学習得が捗らず、親子の間に会話が成り立ちづらい問題です。今回の展示は、境町の外国籍住民の出身の国や地域のことの絵を通じて、少しでも親子間の会話が弾めばと願いました。

「世界の子どもたちの絵画展」と併せて開催したのは「遠藤彰子展」です。遠藤彰子さんは、学生たちを指導されていた武蔵野美術大学を2017年定年退官され、現在、同大

学の名誉教授に就いています。また美術団体の二紀会に所属し、長年に渡り旺盛な創作活動を続けています。

遠藤彰子さんの作品と出会ったのは30年前のこと。美術の出版社に在職していた頃です。遠藤さんの展覧会紹介記事も書いたこともありましたが、作品画面には壮大な叙事詩が繰り広がり、パースペクティブが喪失し、時間と空間が円環を成っています。時間と空間のシッポを捉えることができず。悠久の世界に身を置いているように感じる作品です。

本展では、遠藤彰子さんに自選していただいたジグレイ版画作品3点を展示しました。オリジナル500号サイズ(約330×240cm)の絵を縮小した版画であっても迫力を感じました。遠藤彰子さんが小学生時代に描いた油彩画2点も紹介することができました。原色を使った元気が出る絵です。遠藤さんのこの2点の絵を取り囲むように、海外のこどもたちの絵を展示しました。

さて、冒頭のピカソの言葉に戻ります。遠藤彰子さんは、この言葉通り、こどもの頃から芸術家でした。そして、大人になっても芸術家です。と書くこと、「自分は遠藤さんのようにはなれないよ」と声が聞こえてきそうです。こどもの描画を目的もよいのでなぞってみてください。ご自分のこどもの頃の感性や表現感覚が蘇るかもしれません。ピカソが言う「大人になっても芸術家でいられるかどうかだ」とはこのようなことかとも考えても良いかもしれません。

境町出身の二人画家(内海聖史さんと卯野和宏さん)との協働プロジェクトとして、境町立S-Gallery 肅燦寶美術館を活動拠点としてアート事業を展開しています。本展の後に続いた「火がつくる文様絵画と土器彫刻 松山賢展」を開催し(3月4日、26日)、4月29日より、「肅燦寶展」が始まります。これらに続く展覧会も現在企画中です。境町の広報などをお見逃しなく。

## 俳句

兼題 「行く春・初蝶」 他当季雑詠

令和五年四月 境町文化協会俳句部

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 行く春や行けざる旅をまた思ひ   | 芙蓉 (浦向・石塚みよ子)  |
| 初蝶にリハビリの歩を誘はれ    | 慶子 (東京・印出井慶子)  |
| 春惜しむ手押し車の老いふたり   | ひろこ (旭町・宇野啓子)  |
| 初蝶やそれより白き波しぶき    | 譲一 (旭町・遠藤譲一)   |
| 行く春や春も散りける故郷社    | 幸子 (旭町・大岡幸子)   |
| 初蝶の飛びかう白さ心澄む     | すみ子 (住吉町・落合純子) |
| 初蝶や空に木霊す子等の歓声    | 光夫 (旭町・川邊充雄)   |
| 若草分け小さき初蝶飛び立てり   | 信子 (住吉町・古谷野信子) |
| 初蝶や利根の散歩の連れとなり   | 喜一 (新吉町・鹿久保喜一) |
| 行く春や逡巡として遅桜      | きみ代 (坂花町・須賀君代) |
| 初蝶や空にとけ込み消えにけり   | むりき (住吉町・鈴木力)  |
| 流し目に初蝶ひらり身を躲す    | 香こ (松岡町・高塚香代子) |
| 初蝶やひらりひらりと風に舞ふ   | 正子 (伏木・田村正子)   |
| 初蝶や羽の動きのぎこちなさ    | きよ乃 (陽光台・中嶋清江) |
| 行く春や急ぐでもなし登校児    | 仁 (旭町・中村仁)     |
| 行く春やフラワーパークの模様替え | 妙子 (旭町・前田妙子)   |
| 行く春を惜しんで旅は北の国    | 春世 (内門・渡辺晴代)   |
| 風吹けば羽根柔らかき春の蝶    | 久子 (古河市・渡邊久子)  |
| 初蝶や小さき雷鳴ぎ渡る      | 雄節 (常総市・和田節男)  |
- 
- |                  |       |
|------------------|-------|
| 佳作 聞こえ来るガマの口上春近し | 川邊 充雄 |
| 入選 稲架けて筑波二峰の裾隠す  | 印出井慶子 |
- 
- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 第二十四回NHK全国俳句大会入選作  | 川邊 充雄 |
| 入選 余念なき竿の手入れや水温む   | 川邊 充雄 |
| 入選 己が尾を追いかけて巡る子猫かな | 古谷野信子 |
| 入選 山一つ越えて故郷小夜時雨    | 渡邊 久子 |
| 入選 当千の武者の雄叫び野馬祭    | 川邊 充雄 |
| 入選 うから来て卓袱台二つ盆座敷   | 印出井慶子 |
| 入選 馬追と通夜のしじまを共に居り  | 印出井慶子 |
| 入選 元祿の文字微かなり萩の墓    | 印出井慶子 |
| 入選 自画像を若く描きて秋うらら   | 印出井慶子 |
| 入選 しみじみと秋空高し退院す    | 印出井慶子 |
| 入選 帰省子のお代わり嬉し冷し汁   | 印出井慶子 |

## 短歌

境短歌会 山鳩

- |                             |        |
|-----------------------------|--------|
| かけ足で桜の花が咲きほこり春の色どり人々癒す      | 川上京子   |
| 窓越しにもくれんの花舞い飛びて朝のリハビリ順調になる  | 川村米子   |
| 背を向けし半年会わぬ一歳児やおら振り向き手を伸ばし来る | 古谷野信子  |
| 若菜摘む吾の指先ひらりと紋白蝶は戯れおり        | 斉藤敬子   |
| 春風にひらひら舞いし梅の花狭き小道を真白に染めて    | 桜井レイ   |
| 土手上がり見渡す景色花や木々晴れ渡る空春の訪れ     | 五月女三枝子 |
| 朝早く出勤する娘を見送りぬ雨のあがりし啓蟄の朝     | 鈴木喜與子  |
| 菜の花よ今年も同じ土手に咲くコロナ去り行く願いを込めて | 松岡美智子  |
| やぶ椿 紅色に咲き誇りはかなく地に落つ心わびしも    | 本島イト子  |

四月に入り、新しい一步を踏み出された方もたくさんいらっしゃるでしょう。コロナの感染も少なくなり、各種イベントも少し開放され、桜も例年より早く満開となり多くの方が桜見物等を楽しまれたことと思います。青空のもと、新鮮な空気をいっぱい吸い込みましょう。



①世界の子どもたちが描いたカラフルな作品が彩る作品展 ②展示された遠藤先生のシグレイ版画3点 ③遠藤先生の幼少期の作品 ④ギャラリートークで作品について語る遠藤先生 ⑤作品展の様子

S-Gallery 肅燦寶美術館 茨城県猿島郡境町 1455-1 TEL:0280-23-4148 information



## しゅくさんぼう 肅燦寶展～スケッチから作品まで～

4月29日(土)～7月30日(日)

10:00～12:00 ※入館最終時間 11:30  
13:30～17:00 ※入館最終時間 16:30  
※12:00～13:30 昼休業のため閉館

休館日: 月・火・7月19日(水)  
※7月17日(月・祝)は開館

入館料: 330円

18歳未満、65歳以上は無料(年齢が確認できるものを提示)  
各種障がい者手帳をお持ちの方と付き添い1名無料

主催 境町役場

### 3/21 宝くじ助成事業活用 さくらの森パークの遊具をユニバーサルデザインの新たな遊具と入れ替えました!

「さくらの森パーク」の西側に設置していた複合遊具は老朽化により経年劣化が進んでいました。今回、宝くじの助成金を活用し、ユニバーサルデザインの新しい遊具に入れ替えました。境町内の公園では初となるユニバーサルデザインの遊具の導入により、多様な人が集まる機会が増え、自然とお互いの違いに触れ、交流やコミュニティに発展していく場として活用されることが期待されます。

※宝くじ助成事業は、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源として実施されている事業です。



さくらの森パークに新たに設置された遊具